子どもの
軽度難聴・片耳難聴を
見逃さないために

この冊子は、子どもの難聴を発見できる立場にいらっしゃる
専門職の皆様に読んでいただきたく作成しました。
子どもに軽度難聴や片耳難聴があると、ことばの遅れや
発音の誤りなど、発達に影響する恐れがあります。
ところが、難聴があることに周りの人が気づきにくく、
ご家族でも難聴に気づかないことがあります。
このやっかいな難聴を見逃さないために、
この冊子をぜひ参考にしてください。

さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会

難聴があるのに、聞こえにくい子どもには見えない！

軽度難聴のある子どもは、どのような様子か。
呼べば振り返ります。近い距離での会話に応答できます。
一見して、「聞こえにくい子ども」には見えません。
長い時間見ていると、聞こえにくいように見える時もありますが、
ほとんど聞こえているように見えます。
注意深く見ると、会話の細かなところを聞き逃したり、
聞き間違えたりしていることがあります。
軽度難聴の聞こえにくさを捉えることは、難しいです。

日本聴覚医学会による「難聴の程度分類」では、難聴の程度を４つに分類しています。

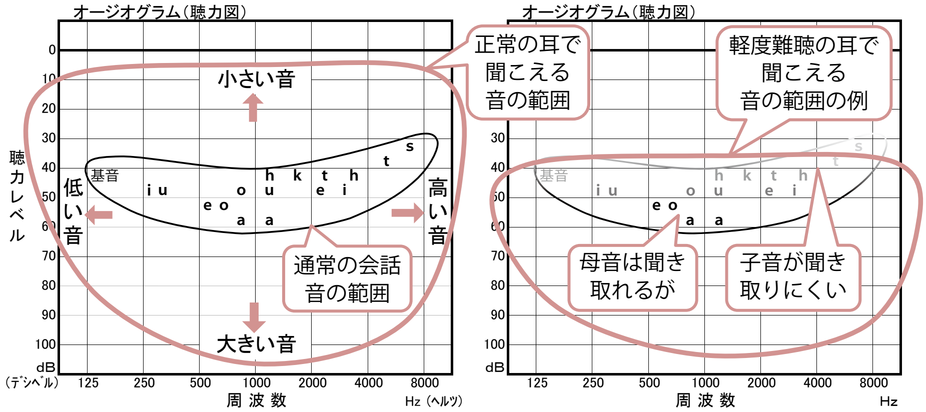
正常:	25 dB 未満		
軽度難聴:	25 dB 以上	40dB 未満	周りの人が気づきにくい。
中等度難聴:	40 dB 以上	70dB 未満	気づきやすい。
高度難聴:	70 dB 以上	90dB 未満	気づきやすい。
重度難聴:	90 dB 以上		気づきやすい。

軽度難聴は、平均聴力レベルが２５～４０dB程度の難聴のことです。
日本聴覚医学会のＨＰでは次のように説明されています。
「小さな声や騒音下での会話の聞き間違いや聞き取り困難を自覚する。
会議などでの聞き取り改善目的では、補聴器の適応となることもある。」

軽度難聴は、見つけにくい！

声は聞こえても、ことばとして分かりにくい！

軽度難聴は、聴力レベルが２５～４０dB 程度です。
通常の会話音の大きさは、６０～３０dB です。
軽度難聴の人は、会話音のほとんどが聞こえていることになります。
しかし実際には、「声は聞こえても、ことばとしては分かりにくい」ときがあります。その点をもう少し詳しく説明しましょう。



会話音の中で、母音は比較的大きな音なので、軽度難聴があっても、母音のほとんどを聞き取ることができます。
一方、子音は大きな音から小さな音まで様々です。
そのため、子音の一部は聞き取れますが、一部は聞き取れません。
子音は、ことばの一音一音を聞き分けるために必要です。
その子音が、省略されたように聞こえることがあります。
例えば、**「ほっかいどう、さっぽろし」**が
「ぉっかぃどぅ、ぁっぽろぃ」と聞こえるかもしれません。

軽度難聴は、聞こえていても分かりにくい！

分かりにくさは、状況によって変化する！

前述の、「ことばとしては分かりにくい」状態は、常に一定しているわけではありません。
その時の状況に、下記のような「ことばの聴き取りを阻害する要因」が有るか無いかによって、分かりやすいときと、分かりにくいときがあります。

ことばの聴き取りを阻害する要因

- 声が小さい。
- 距離が離れている。
- 周りの騒音が大きい。
- 聞こえにくい耳の方向から話される。
- 早口で話される。
- 口の動きが見えない。
- 話し手の人数が多い。
- 使われることばが難しい。
- 話題がつかめない。

例えば、静かな場所で、相手が一人で、日常的な会話をする状況では、分かりやすくなります。
逆に、騒音がある場所で、相手が複数で、初めて聞く内容の会話では、分かりにくくなります。
そのため、幼稚園などの集団で交わされる会話は分かりにくく、家庭で家族と交わす会話は分かりやすいのです。
ご家族が、難聴に気づきにくいのも、このためかもしれません。

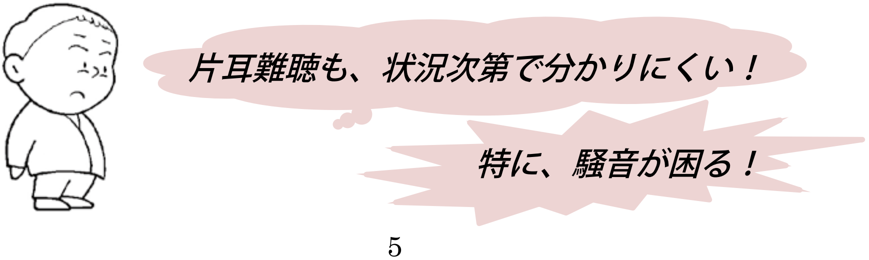
軽度難聴は、状況次第で分かりにくい！

片耳だけ聞こえにくい片耳難聴

片方の耳は正常で、片方だけが難聴になっている場合もあります。
「片耳難聴」とか、「一側性難聴」とか言われます。
静かな場所で、近い距離の会話であればほとんど問題ありません。
ただ、片方の耳だけで聞くので、音の来る方向が分かりません。
呼ばれても、どの方向から呼ばれたか分からないことがあります。
また、騒音の中で人の話を聞き分けることが難しくなります。
特に、騒音のある時に、聞こえにくい耳の側から話されると、
理解できないときがあります。
その場合、聞こえる耳の側から話すと伝わりやすくなります。

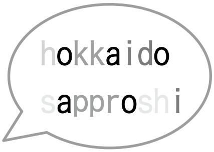
大変見つけにくい片耳難聴

片耳難聴は、軽度難聴よりもさらに見つけにくい難聴です。
軽度難聴を見つける検査として「ささやき声検査」が使われますが
「ささやき声検査」では片耳難聴を見つけることはできません。
片耳難聴を見つけるには「指こすり検査」を使います。
「指こすり検査」は、左右の耳に別々に音を聞かせる検査なので、
片耳難聴も見つけることができます。



大人は大丈夫でも、子どもにとってはつらい！

●「軽度難聴なら大丈夫」、「片耳が聞こえていれば大丈夫」との意見もあります。確かに大人の場合には、自分で対処して、何とか暮らしている方がたくさんいます。
それは、大人の人が既に日本語の力を身につけているからです。
聞こえにくい部分（子音）を「補って理解する力」があるからです。
子どもの場合には、まだ日本語を学習している途中です。
「補って理解する」ことが、できるときと、できないときがあります。
理解できないことが多くなると、会話することが不安になり、
会話意欲が低下し、ことばの学習に影響します。
●子どもによっては、ことばの発達が遅れる場合があります。
また、発音の仕方をうまく学習できない場合があります。
さらに、友達関係が育ちにくかったり、
自己肯定感が育ちにくかったりする場合もあります。
もちろん、早期に発見し適切な配慮をすることによって、
問題を軽減することは可能です。



「補って理解する」には、
日本語の力がいります。
でも子どもには、つらい！

子どもの場合は、要注意！

分からない、つまらないが、学習意欲を失わせる！

●幼稚園の自由遊びの場面は、ことばや遊びを学ぶチャンスです。しかし、周りがうるさく複数の友達が話すので、軽度難聴や片耳難聴のある子どもにとって、「分からない、つまらない」となりやすく、子どもによっては、友達と遊ぶのを諦めてしまう場合もあります。
●また、先生による紙芝居の読み聞かせ場面は、新しいことばを学ぶチャンスです。しかし、紙芝居の中で日常使わないことばがたくさんあると、耳で聞くだけでは「分からない、つまらない」となりやすく、子どもによっては、聞くことを諦めてしまう場合もあります。
「分からない、つまらない」が、学習意欲を失わせる恐れがあります。

問題が表面化しなくても「要配慮」「要経過観察」！

●軽度難聴や片耳難聴があっても、問題が表面化しない子どももいます。状況把握がうまい子どもや、本からもことばを学んでいる子どもは、皆と一緒に活動を続けるので、問題が表面化しません。
●でも、表面化しなければよい、ということではありません。
難聴があることは、子どもにとって「負担」です。
問題が表面化している子どもも、表面化していない子どもも、
どちらにも「配慮」と「経過観察」が必要です。

子どもの場合は、みんな要配慮！

軽度難聴・片耳難聴がある子どもへの「配慮」

医療的な配慮

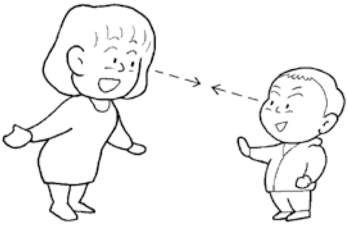
●軽度難聴や片耳難聴の疑いのある子どもがいた場合、
まず、耳鼻咽喉科において医学的な診断と必要な治療を受けます。
できれば、「新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関」で検査と診断を受けるのが望ましいです。P.15 に機関の一覧を掲載します。
●経過観察として、定期的に耳鼻咽喉科を受診し、聴力の変動に対処できるようにします。また、聴力の低下が疑われたらすぐに受診します。
日常的に、耳や鼻の健康維持に留意します。

教育的な配慮

●難聴があると診断された場合、周りの大人の理解が重要です。
「聞こえているように見えても、状況次第で理解できない場合がある」ことを共通理解しておきます。
●「配慮」について原則的な考え方は、４ページで説明した「ことばの聴き取りを阻害する要因」が少なくなるように工夫することです。
それによって、子どもの会話意欲や学習意欲が低下しないようにします。
●次のページに、参考として「基本的な配慮」を例示します。これは、４ページの「阻害する要因」を少なくする方法の一例です。
実際には、その子に難聴があることによって、どのような「負担」があるのか、実態を観察し把握した上で「基本的な配慮」を参考にして、「個別の配慮」を計画します。

基本的な配慮

ちょうどよい声の大きさで 話しかける。
近い距離から 話しかける。 教室等では 座席を配慮する。
静かな場所で、又は静かな時に 話しかける。
聞こえやすい耳の側から 話しかける。
ちょうどよい速さで 話しかける。 繰り返して 話しかける。
目を見ながら、視線が合ったときに 話しかける。
いきなり話しかけないで 「これから話すよ」と合図をして 話し始める。
固有名詞など、聞き慣れないことばは 文字に書く。
これから何の話をするか話してから、又は書いてから話し始める。



座席を配慮する

教室等では、難聴のある子ども全てに「座席の配慮」が必要です。

先生の声が聞きやすい。
先生の顔が見やすい。
周りの友達の様子が見やすい。

これら三つの観点を基本にして考え、この他にも、
左右どちらの耳が聞こえやすいか、教室の外からの騒音があるかなども
考慮して、子ども本人とも相談しながら総合的に判断します。
最前列中央が良いとは限りません。二〜三列目が良いこともあります。

子ども同士の会話を観察する

●子ども同士が会話する場面にも注意が必要です。
軽度難聴や片耳難聴のある子どもにとって、
ザワザワとした騒音の中で、複数の友達が話していることを聞いて、
理解することはかなり大変です。大きな負担になります。
●例えば、幼稚園や保育園なら、自由遊びや昼食の時間など、
学校なら、グループ学習や給食時間、休み時間などです。
このような場面で、子どもが友達との会話に参加できているか、
意欲的に会話しているかなどを観察し、必要に応じて援助します。
●また、声かけに応えないときに、「無視している」等の誤解を
されることもあるので、周囲の理解を促します。

補聴手段を活用する

●身体障害者手帳を持たない、軽・中等度難聴の子どもたちへ、
市町村による補聴器購入助成制度が、数年前から始まりました。
これを機に、軽度難聴や片耳難聴のある子どもたちで、
補聴器を装用する子どもたちが増えています。
●最近は、軽度難聴の人もうるさく感じない、
やさしい音のデジタル補聴器が販売されています。
また、教師がデジタル式のワイヤレスマイクをつけ、
教師の声を子どもの補聴器に、安定して届けるシステムもあります。
●補聴器への心理的な抵抗は、以前より少なくなっているようです。
それでも、補聴器の装用に当たっては、お子さんやご家族の思いをよく
受け止めて対応します。

見逃さないために「聞こえのチェック」をしてみましょう！

これから紹介する「聞こえのチェック」は、「聞こえのチェック項目」と「ささやき声検査」「指こすり検査」で構成されています。
日本耳鼻咽喉科学会　福祉医療・乳幼児委員会作成のリーフレット「難聴を見逃さないために」を参考に、当会で作成したものです。
３歳児健康診査の中の「聴覚スクリーニング」に準じた内容です。
ことばなどに心配があるお子さんも、特に心配がないお子さんも、全ての幼児さんに「聞こえのチェック」をお勧めします。

詳しくは、当会のホームページをご覧ください。

ホームページでは、「聞こえのチェック項目」の他、「ささやき声検査」「指こすり検査」の実施方法をビデオで分かりやすく解説しています。

ホームページの見方
「さっぽろこどものきこえ」で検索してください。
URL http://kodomonokikoe.net

- 当会発行の、保護者向けチラシ「お子さんの聞こえのチェックをしてみませんか？」には、「聞こえのチェック項目」が掲載されています。
- また、当会発行の専門職向け図書「こどものきこえ小百科　小児難聴の発見と支援」の P.50〜56 にも詳しい解説があります。

→何れも P.16 に、申し込みの案内があります。

「聞こえのチェック」の流れ

①から順番に読んで、当てはまる項目がないか確認していきます。

①２歳になっても、意味のあることばが出ない。
②名前を呼んだときに、振り向かないなど、反応がないことがある。
③テレビの音を大きくする、または近づいて聞くことがある。
④身ぶりを入れて話さないと、伝わらないことがある。
⑤子どもの耳が聞こえにくいのでは、と思ったことがある。
⑥親戚や先生から、「聞こえにくいのでは」と言われたことがある。

- ３歳以上で、全て当てはまらない場合 → ⑦へ進む
- ３歳未満で、全て当てはまらない場合 → ３歳未満の聞こえのチェックはここで終りです。 → 次頁の A へ
- １項目でも当てはまる場合 → 聴力が低下している可能性があります。 → 次頁の B へ

⑦会話の中で、反応がない、または聞き返してくることがある。
⑧ささやき声で話すと、わからないことがある。
⑨ことばが遅れているのでは、と思うことがある。
⑩うまく発音できない音がある。　例　サカナ　→　チャカナ
⑪ことばがはっきりしない。こもったような声で話している。
⑫状況に合わない大きな声、または小さな声で話すことがある。
⑬話している人の顔を見ながら、話を聞くことが多い。

- 全て当てはまらない場合 → 次頁の⑭へ進む
- １項目でも当てはまる場合 → 軽度の聴力低下の可能性があります。**「ささやき声検査」**をしてみましょう。

「**ささやき声検査**」をした結果、
聞こえにくさが疑われますか？

疑いはない → ⑭へ進む

疑われる → B へ

⑭左右どちらかの耳で電話の音声がわからないことがある。
⑮話しかけると、どちらかの耳をこちらに向けることがある。
⑯まわりがうるさいところでは、話が通じにくいことがある。

全て当てはまらない場合 → A

1 項目でも当てはまる場合

片方の耳の聴力低下の可能性があります。
「**指こすり検査**」をしてみましょう。

「**指こすり検査**」をした結果、
聞こえにくさが疑われますか？

疑いはない → A

疑われる → B

A

今のところ、聞こえは大丈夫と考えられますが、引き続き、お子さんの聞こえの様子を見守ってあげてください。特に耳や鼻の病気に罹ったときや、カゼなどで体調をくずしたときには、注意して見てあげてください。

B

耳鼻科を受診して聞こえにくさがあるかどうかを調べてもらいましょう。

検査方法など詳しいことは、当会のホームページ、又は、
「こどものきこえ小百科　小児難聴の発見と支援」をご覧ください。

軽度難聴・片耳難聴の色々なタイプ

●伝音難聴による軽度難聴

中耳炎など、中耳や外耳道でおきる疾患によって起こる難聴です。高い周波数の音より、低い周波数の音が聞こえにくい場合が多いです。

●感音難聴による軽度難聴

蝸牛管など、内耳より奥でおきる疾患によって起こる難聴です。低い周波数の音より、高い周波数の音が聞こえにくい場合が多いです。
サ行の音などがうまく発音できていない場合があります。

●騒音性難聴

大きな音を長時間聞くことによって起こる難聴です。4000dip と呼ばれる 4000Hz だけ聴力が低下する聴力図が特徴です。

●片耳難聴

片方の耳だけに難聴があります。一側性難聴とも言われます。音の来る方向が分からない。騒音下での会話が聞き取りにくい特徴があります。ささやき声検査では発見が難しく、指こすり検査が発見には有効です。

●一時的な聴力低下

中耳炎等に罹っている間、聴力が低下する場合があります。その時期が、発音を覚える時期と重なると、発音に影響する場合があります。
罹っている期間が長引くと、影響が大きくなります。
もし罹ったら、しっかり治療して、短期間で治すことが大切です。

新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関

○北海道大学病院 耳鼻咽喉科（完全紹介制）
060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目

○札幌医科大学附属病院 耳鼻咽喉科
060-8543 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目 291 ☎611-2111　内 55170

○北海道立子ども総合医療・療育センター（コドモックル）(電話で予約)
006-0041 札幌市手稲区金山 1 条 1 丁目 240 番 6 ☎691-5696

○耳鼻咽喉科麻生病院
007-0840 札幌市東区北 40 条東 1 丁目 1-7 ☎731-4133　Fax731-4986

○厚別耳鼻咽喉科病院
004-0065 札幌市厚別区厚別西 5 条 1 丁目 16-22 ☎894-7003　Fax894-7005

○とも耳鼻科クリニック
060-0061 札幌市中央区南 1 条西 16 丁目 ANNEX レーベンビル 2F
☎616-2000　Fax616-2180

○母恋 天使病院 耳鼻咽喉科
065-0012 札幌市東区北 12 条東 3 丁目 1-1 ☎711-0101　Fax751-1708

子どもの聞こえについて相談できる専門の教育機関

○北海道札幌聾学校（全市）(乳幼児の教育相談も受けます)
001-0026 札幌市北区北 26 条西 12 丁目 ☎716-2979　Fax758-7617

＜小学校＞ (幼児の教育相談も受けます)

○札幌市立中央小学校きこえの教室（手稲 西 中央 南区）
060-0041 札幌市中央区大通東 6 丁目 12 ☎241-2533　Fax261-5723

○札幌市立幌北小学校きこえの教室（北区）
001-0019 札幌市北区北 19 条西 2 丁目 ☎747-6797　Fax716-0944

○札幌市立南郷小学校きこえの教室（豊平 清田 白石 厚別区）
003-0024 札幌市白石区本郷通 4 丁目南 3-1 ☎863-0863　Fax861-9527

○札幌市立元町小学校きこえの教室（東区）
065-0025 札幌市東区北 25 条東 17 丁目 ☎781-2194　Fax783-8101

＜中学校＞

○札幌市立中央中学校きこえの教室（北 東区を除く全市）
060-0034 札幌市中央区北 4 条東 3 丁目 ☎241-5080　Fax241-6359

○札幌市立北辰中学校きこえの教室（北 東区）
001-0018 札幌市北区北 18 条西 2 丁目 ☎716-6201　Fax716-4172

当会発行の図書や資料をご希望の方はメールで、下記のイ～ホ、それぞれの注文数と、
送り先の郵便番号・住所と氏名をお知らせください。
イの図書の代金は、同封する「払込取扱票」で送金してください。
郵送料と払込手数料は何れも無料です。 メールアドレス　kikoenet@gmail.com

イ 専門職向け図書　（Ａ５版　９６ページ　１冊 1,000 円）
「こどものきこえ小百科　小児難聴の発見と支援」

ロ 一般保護者向けチラシ　（Ａ５版 ４ページ無料）
「お子さんの聞こえのチェックをしてみませんか」

ハ 保護者・担任向けパンフレット　（Ａ４版　８ページ 無料）
「聞こえているように見えても聞こえにくい、難聴のある子どもたち」

ニ 学生・社会人向け資料
難聴について周りの人に説明する資料
資料１「難聴のある人と話してみる」　（Ａ４版　4ページ 無料）
資料２「自分の難聴について説明する」　（Ａ４版　20ページ 無料）

ホ この小冊子「子どもの軽度難聴・片耳難聴を見逃さないために」（無料）

さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会

連絡先１　062-0043 札幌市豊平区福住３条１丁目 6-8
池田　寛（幹事会代表）☎011-853-6955
連絡先２　060-0041 札幌市中央区大通東６丁目 12
札幌市立中央小学校きこえの教室　小木原弘晃（幹事）
☎011-241-2533

ホームページ URL　http://kodomonokikoe.net →
メールアドレス　kikoenet@gmail.com